



アスピア



社会貢献をするJFAの意義

サッカー文化に対する熱い思いを共有できる仲間がいる。そしてそれぞれのサッカー文化との出会い方がある。今、スポーツ競技団体に求められているのは、スポーツ文化との出会い方の多様性であると考えます。影響力のある大きな団体・企業は、偏った声でなく、細やかなところにも届けることができる声を発し、社会貢献という意識を高く持たなければならない。JFAがこれからの未来への姿を思い描くときに、サッカー文化を基礎として多様な人との関わりができる活動、支援が競技自体と同じく、大きな柱になるとを考えます。これこそが社会から信頼を得ることとなり、より多くのステークホルダーと共に未来の社会構築へ共に歩むことができるJFAになっていくのだと思います。社会貢献委員会ではまだまだスタートし始めたばかりのこの活動を今後より一層活発にしていかなくてならないことを提言し、時代の価値観の大きな変動の時期である現況に於いて、JFAの進むべき新たな視座を提案していきたいと考えています。

公益財団法人日本サッカー協会
理事・社会貢献委員会委員長
日比野 克彦

目次

社会貢献委員長ご挨拶	2
目次	3
JFAの理念・ビジョン	4
アスパス！と重要課題	5
タイムライン	6
このレポートについて	8

重要課題別



ESGデータ集（GRI対照表）	34
パートナーシップ・国際イニシアチブ	36
JFA関連組織図	37
JFAガバナンス体制図	38
社会貢献委員会	39

環境	9	健康	21
温室効果ガスの算定	10	セーフガーディング	22
天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会決勝における 温室効果ガス排出量調査	11	ダイバーシティ&インクルージョン	23
ペットボトルの水平リサイクル推進	12	日本障がい者サッカー連盟	
JFAオフィスにおける環境への取り組み	13	サッカーなら、どんな障害も超えられる。	24

人権	14	教育	25
誰も取り残さない競技観戦環境	15	コロナ禍でも学びを止めない	26
センサリールーム 東京藝術大学との連携	16		
センサリールーム JFAの広報活動	17		
女性のエンパワーメント	18	地域	27
WEリーグ リーグ開幕とWE ACTION	19	Think Globally, Act Locally.	28
JFA・WEリーグ 女性リーダーシッププログラム	20	文京区 こども宅食プロジェクト	29
		リーグ 環境省との連携協定締結	30
		サッカー日本代表 国際試合会場における取り組み	31

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの
普及

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの
強化

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

社会の
発展への
貢献

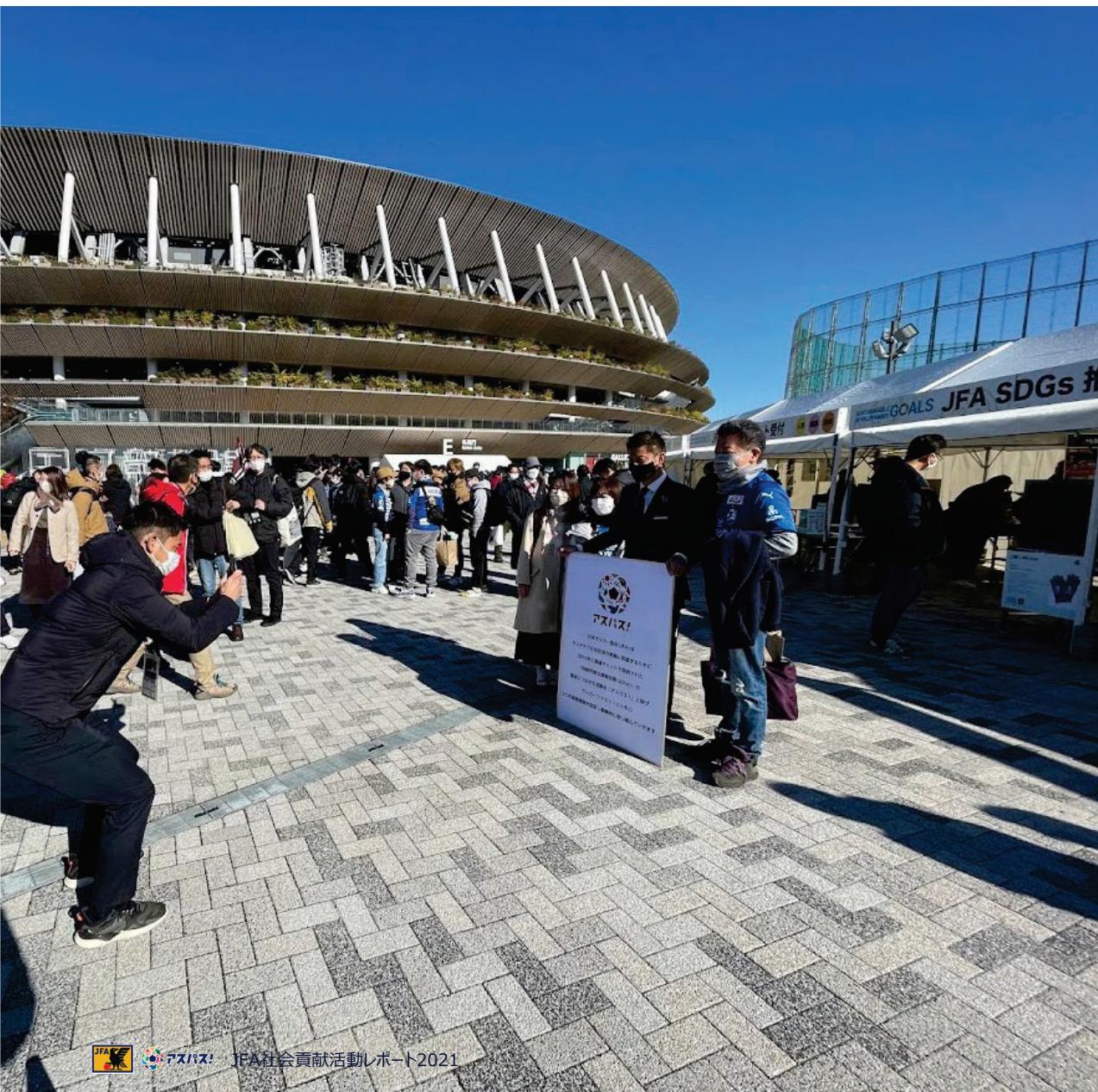
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々との友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAの約束2050

2050年までに、すべての人々と喜びを分かちあうために、ふたつの目標を達成する。

1. サッカーを愛する仲間＝サッカーファミリーが1,000万人になる。
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、日本代表チームはその大会で優勝チームになる。





JFA アスパス! JFA社会貢献活動レポート2021

アスパスと重要課題



「アスパス！」は“地球(earth)の明日(未来)のために私たち(us)がつなぐバス”的意を込めた造語で、サッカーファミリーが世代や時代を超えて“バスを繋いでいく”という強い決意を表現しています。ロゴには地球でできたサッカーボールが描かれ、サッカーファミリーが人々や動物、環境などのすべてと一つのチームとなって、地球の明日をつくるいくことをイメージし、制作しました。



環境



人権



健康



教育



地域

JFAはサッカー競技を統括する唯一の団体としての社会的責任を踏まえ、これまでもさまざまな活動を関係する団体とともに推進してきました。

2021年に創立100周年を迎えたJFAは、次の100年に向かって「環境、人権、健康、教育、地域」の5つの重要課題について、戦略的に施策を推進していきます。本レポート中においては、関連する重要課題を示すアイコンをそれぞれの活動ごとに表記します。

アスパス！>はじめに

タイムライン



～1月1日

天皇杯第100回JFA全日本サッカー選手権大会

2月

ボトルtoボトル東京プロジェクトへの協力



5月～

東京藝術大学でセンサリールーム製作開始



5月28日～6月5日

RUN FOR THE OCEANS



2021

1月

2月

3月

4月

5月

6月

1月9日～11日

第12回フットボールカンファレンス



3月11日

東日本大震災から10年



6月28日

Jリーグ：環境省との連携協定



6月～10月

第2回女性リーダーシップ・プログラム



2021年9月10日

JFA100周年



「アスパス！」ロゴ発表



5つの重要課題設定



環境



人権



健康



教育



地域

2021

7月

8月

9月

10月

11月

12月

7月～10月

JFA SDGsブース



8月

JFAハウス・高円宮記念JFA夢フィールド
電力の再生可能エネルギーへの切り替え

9月11日

リスペクトシンポジウム



9月12日

WEリーグ開幕



～12月19日

天皇杯第101回JFA全日本サッカー選手権大会



アスパス! JFA社会貢献活動レポート2021

このレポートについて

背景

JFAはサッカー競技を統括する唯一の競技団体としての社会的責任を踏まえ、「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念を掲げています。JFAは47都道府県サッカー協会、9地域サッカー協会、Jリーグ、各種連盟からなる加盟団体や、価値観や目標を共有する様々なパートナーとの活動を通じて、社会の発展に貢献しています。このレポートは、JFAや加盟団体が実施または連携する様々な社会貢献活動（社会課題解決の取り組み・CSR活動）について、ステークホルダーの皆様に共有し、透明性のある組織運営につなげることを目的に作成するものです。

SDGsとの関連

このレポートは、SDGsターゲット12.6において求められている、持続可能性に関する情報が含まれた定期報告にあたります。

スコープ[°]

報告対象は、特に断りが無い限り、2021年度（2021年1月1日から12月31日に）に関するものとしています。レポート発行時点で可能な限り最新の情報を掲載するよう努めます。そのため、2022年度に関する内容が一部含まれることがあります。

2019年から社会貢献委員会の活動を中心に年に1回報告を行ってきましたが、JFAとしてSDGsの取り組みをより強化し、重要課題の設定等を通じて組織全体に統合する動きを踏まえ、「社会貢献活動レポート」として作成するものです。

このレポートでは、社会貢献活動とそのインパクトを包括的にご紹介しますが、5つの重要課題を基にJFAやステークホルダーにとって関連の大きい活動を中心に報告します。そのため、より詳しい情報や最新情報については、JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」や関係するウェブサイトもあわせてご参照ください。

構成

- このレポートは、3つのパートで構成されます。
- ・はじめに
- ・重要課題別（環境、人権、健康、教育、地域）
- ・おわりに

ねらい

従来は、天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会における取り組みを含め、活動ごとにまとめて報告していましたが、今回は、重要課題にフォーカスして編集しました。レポート全体を通して、JFAのみならず各団体・地域においても同様に取り組んでいただきたい実践例を強調しています。これにより、「アスパス！」を意識した新たな事業が実施されたり、創造的な新しいアイデアやアプローチが、ステークホルダー間の対話を通じて次々と生まれ出されることを期待しています。

環境
Environment

ずっとスポーツできるように、
もっと地球を守ろう。

JFA社会貢献活動レポート2021

ビーチサッカー国際報告会



環境

Environment

ずっとスポーツできるように、
もっと地球を守ろう。

なぜ重要なのか？

SDGsは世界的、地球的な課題解決のための目標です。環境省によると、SDGsの17のゴールのうち13は直接的に「環境」に関連するもので、残り4つも間接的に関連することから、SDGsはすべての領域で環境に関連しています。このうち、**ゴール13の「気候変動に具体的な対策を」とゴール12「つくる責任つかう責任（持続可能な消費と生産）」**は、国の重点施策とも密接に関連しています。



気候変動に具体的な対策を
気候変動については、**温室効果ガス排出削減**、「**緩和**」の取り組みが急務となっています。菅内閣は「2050年カーボンニュートラル宣言」を行いました。**脱炭素社会の実現**が社会経済を大きく変革し、投資を促し、生産性を向上させ、産業構造の大転換と力強い成長を生み出す鍵となるものと位置づけ、**脱炭素イノベーション推進**のための2兆円の基金創設、**再生可能エネルギー**の拡充、脱炭素ライフスタイルへの変換、**ゼロカーボンティ**（脱炭素地域創出）などの施策を行っています。

また、これら気候変動の「緩和」のみならず、2018年に施行された気候変動適応法により、温暖化の進展により顕著となっている**熱中症・感染症**や大型台風等の**異常気象**の影響を軽減する「**適応**」の推進も求められています。

これらの気候変動への適応、緩和、影響軽減、早期警戒に関する**教育（ESD）**、**啓発**なども、ゴール13のターゲットとされています。スポーツは、今後気候変動対策のために社会が大きく変化する時代において、取り残されがちな人々にフォーカスし、社会全体を牽引する大きな原動力となることもできます。



持続可能な生産と消費
もう一方の持続可能な生産と消費は、主に生産・消費のライフサイクル全体を通して、**天然資源や有害物質の利用削減、廃棄物や汚染物質の排出削減**を目指しています。

一人あたりの食品ロスの半減、生産やサプライチェーンにおける**フードロスの削減、発生量の削減や再生利用（リサイクル）、再利用（リユース）**による廃棄物の削減、持続可能性に関する定期報告、浪費的な消費を推奨する補助金・化石燃料に対する補助金の合理化など、取り組みの領域は非常に多岐にわたります。近年は、海洋プラスチックごみの発生も大きな問題となっており、**ペットボトル水平リサイクル率**の向上も大きな課題です。

エシカル消費は、国の消費者基本計画において、「**地域の活性化や雇用**などを含む、人や社会・環境に配慮した消費行動」とされています。消費者へ環境に配慮した商品であることを示す**環境ラベリング制度**は国際標準化機構（ISO）や環境省がガイドラインを定めています。企業も**CSR調達**により持続可能な成長につなげています。



環境



人権



健康



教育



地域

温室効果ガスの算定



SDGs 12.6,13.2 / GRI 102-55,305

ミッション

競技会において排出される温室効果ガスを算定
カーボンニュートラル実現のための課題を検討

目標

競技会で排出される温室効果ガスの算定

環境に配慮した競技会運営の実施

スタッフ弁当の容器を見直し、できるだけ食べ残しがでないよう発注量も調整

飲食売店において、プラスチック容器の使用をなくすなど、脱プラスチックの取り組みも継続

ペットボトルの水平リサイクルを推進。勝利チームを予想するキャップ回収を実施

ハイライト

東京都市大学伊坪徳宏研究室の協力を得て、天皇杯第101回JFA全日本サッカー選手権大会決勝に関するサプライチェーン全体の温室効果ガス排出料算定を実施。

観客対応（チケット販売、来場者プレゼント）が最も多く、会場装飾・演出、来賓対応、運営スタッフ、印刷物、感染症対策、広報、競技運営、飲食売店と続いた。第100回大会と比較して来場者が大幅に増加したにもかかわらず、様々なな積極的な環境配慮の取り組みの結果、排出量を抑制することができた。

また、SDGsベースでのペットボトルのキャップ回収は1,972個集まり、直近の日本代表戦での個数を大幅に上回った。特に決勝進出チームのサポーターからの協力が大きく、ペットボトル分別の啓発に大きくなかった。

主な指標

天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会決勝における
温室効果ガス（GHG）排出量（スコープ1～3）
(GRI-305)



今後に向けて

サプライチェーン全体を通じたあらゆるレベルでの
温室効果ガス削減の取り組みの継続・進展



実践例

天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会決勝における温室効果ガス排出量調査



環境

人権

健康

教育

地域

目的：天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会決勝における温室効果ガスのインベントリ（一覧）の分析を行い、環境へ与える負荷を把握することで、今後の排出削減の検討材料とする。

方法：東京都市大学伊坪教授の研究室にご協力いただき、GHGプロトコルに基づく、直接的・間接的・その他の排出項目と、イベントのライフサイクルアセスメントに基づく全体の排出項目を検討し、財務（購入額）データまたは物量データと排出源単位（排出係数）をかけた二酸化炭素換算の排出量を算定。

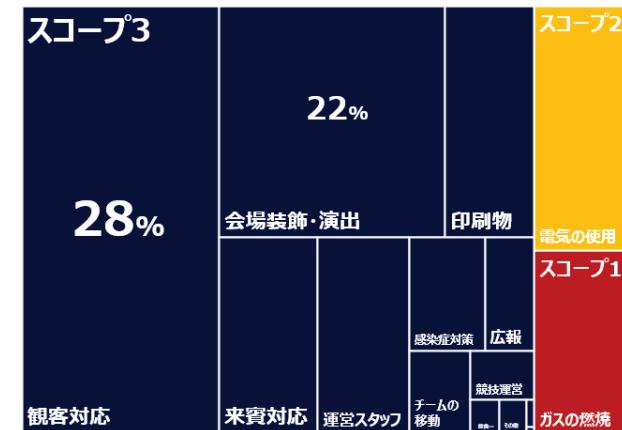
システム境界：第100回大会決勝（13,318人）、第101回大会決勝（57,785人）を、同じ算定項目を用いて計算。主催者であるJFA、主管協会及び会場や業務委託先のすべての活動を対象とした。また、対戦チームと観客の移動も対象とした。観客の移動についてはGHGプロトコルのスコープ1～3に含まれないが、イベントのライフサイクルアセスメントの観点で対象とした。放送局及びスポンサーが手配した部分については、今回の算定においては対象外とした。

結果：GHGプロトコルで定義されるスコープ1～3の排出項目においては、第100回大会決勝で約562トン（CO₂換算、以下同じ）、第101回大会決勝で約598トンの排出となつた。これはスギの木約4万5千本が年間に吸収するCO₂の量に相当。イベントのライフサイクルアセスメント上含まれる観客移動を加えた排出量は、第100回大会が約652トン、第101回大会が1,492トンとなつた。

スコープ別ではスコープ3が最も多く、第100回大会が約477トン、第101回大会が約495トンとなり、入場者が大幅に増加したにもかかわらず、約3%の増加に留まつた。スコープ1～3のカテゴリー別では、観客対応（チケット販売、来場者プレゼント）が最も多く、会場装飾・演出、来賓対応、運営スタッフ、印刷物、感染症対策、広報、競技運営、飲食売店と続いた。

今後の取り組み：大規模イベントは環境への負荷が非常に大きいため、主催者として、様々な関係者との対話の中で新たなサステナブルな取り組みを検討することなどによって、より一層の排出量削減強化が必要。

第101回大会決勝の温室効果ガス排出量インベントリ（スコープ1～3）



ペットボトルの水平リサイクル推進



SDGs 12.2,12.4,12.5/GRI 102-55,306

ミッション

ペットボトルの廃棄を減らし
ボトル to ボトルの水平リサイクルを推進

目標

ペットボトルの水平リサイクル推進

JFAハウスにおける実証実験と実践

競技会におけるペットボトル分別回収推進

ハイライト

JFAは一般社団法人全国清涼飲料連合会と東京都が実施する「ボトルtoボトル東京プロジェクト」の取り組みに賛同し、2月15日から26日の期間、ペットボトルの質の高い分別回収を目指す実証実験に参加。JFAハウス内の役職員が利用する休憩スペース2カ所に、消費者のリサイクル意識を高めるためにデザインされた「リサイクルステーション」を設置。ペットボトルのキャップとラベルやゴミの分別（3分別）、アンケートなどに協力することで、その効果を測る実験に参加するとともに役職員の意識向上を図った。実証実験終了後も、ゴミ箱の表示を工夫するなどし、3分別を徹底している。

また、サッカー日本代表や第101回天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会決勝の会場においてSDGsブースやドリンクの移し替えコーナーを中心にペットボトルの正しい分別を啓発し、ペットボトルのキャップを利用した勝利チーム予想コーナーを設け、楽しみながらリサイクルが広がる取り組みを行った。

主な指標

ペットボトルの水平リサイクル推進

日本におけるペットボトルからペットボトルへの
水平リサイクル率（2020年度） **15.7%**

JFAハウスにおける実証実験

期間中の3分別実施率 **93%**

競技会におけるペットボトル分別回収推進

実施した試合 **3試合**

今後に向けて

オフィスや試合会場での分別の継続
サッカーファミリー全体への取り組みの浸透

実践例

JFAオフィスにおける環境への取り組み



環境



人権



健康



教育



地域



ペットボトル3分別

<https://www.jfa.jp/news/00026370/>

2021年2月、全国清涼飲料運搬会様と東京都の取り組みである「ボトルtoボトル東京プロジェクト」にJFAとして協力する形でペットボトル3分別の実証実験を実施。「3分別」とは、ペットボトルをボトル、キャップ、ラベルの3つに分けた状態で回収されることを指します。

3分別推進のために新しくデザインされたリサイクルステーションをJFAハウス10階と11階のリフレッシュルームに設置し、通常時と3分別されたボトルの量を比較。結果として、全体で95%もの3分別比率を達成。この結果は、今回の実証実験を行った他の事業所を含めて最高の割合となり、JFA職員の意識の高さを裏付けた。実証実験は約2週間で終了したが、JFAハウス内のごみ箱を中身が見えるものに置き換え、継続して意識してもらえるよう工夫している。



再生可能エネルギーの電力切り替え

<https://www.jfa.jp/news/00027632/>

2021年8月から、JFAハウス及び高円宮記念JFA夢フィールドで使用する全ての電力を再生可能エネルギーに切り替えた。JFAが使用するのは、太陽光やバイオマス発電などをもとに発電された電力で、環境価値が付与されたRE100対応電力となっている。



森林認証紙の使用

2021年からJFAが使用する、名刺、機関紙をFSC森林認証紙へと切り替えた。森林認証紙は、陸の豊かさを守り、貧困をなくし、私達の暮らしをこの先も豊かにしていくことにつながる。





人権

Human Rights



なぜ重要なのか？

国連は、人権の享受のために特別の保護を必要とする女性、子ども、障がい者、移住労働者とその家族、難民、少数者とその他の脆弱な立場にある人々に対応した様々な人権法を整備してきました。

人権は、「だれも取り残さない」というアジェンダのキーワードに象徴されるように、SDGsのすべてのゴールに盛り込まれており、必ず考慮されるべき重要な課題となっています。

具体的には、**ゴール10「人や国の不平等をなくそう」**において、障がいの有無にかかわらず一緒に生きる社会を目指す共生社会の実現を含んだ平等権が全般的に取り上げられているほか、**ゴール1「貧困をなくそう」**では生存権、幸福追求権が、**ゴール5の「ジェンダー平等を実現しよう」**においては男女平等と女性のエンパワーメントが個別のゴールとして改めて強調されており、いずれもスポーツが貢献できる領域です。

人や国の不平等をなくそう

人の不平等をなくすための中心的な考え方は、「**ダイバーシティ&インクルージョン**」です。年齢、性別、障がいの有無、人種、民族、出自、宗教、経済的地位、その他**その人が置かれている状況にかかわらず（ダイバーシティ）**、すべての人々が社会的にも経済的にも**排除されること無く**包摶されている状態（インクルージョン）になることをいいます。スポーツは誰もがすぐに仲良し楽しむことができるツールとして、共生社会実現に影響を与え（エンパワーメント）促進すること（プロモーション）ができます。

貧困をなくそう

貧困には、最低限の日常生活もままならない「**絶対的貧困**」と、その国の文化水準、生活水準と比較して困窮した状態である「**相対的貧困**」という概念があります。日本では、相対的貧困の割合を半分にし、格差をなくすことが大きな目標です。また、**子どもの貧困**も大きな問題となっています。自覚がなかつたり、支援を求めづらい状況もあり、身近にあるにもかかわらず**見えにくい社会問題**です。無料で参加できるイベントなどは、子どもたちの未来を応援することにつながります。

ジェンダー平等を実現しよう

世界人口の半数を占めるのは女性です。**ジェンダー差別**がなくなければ、途上国を中心に世界で起きている、いたたまれない差別に苦しむ人たちが救えるだけでなく、**女性の社会参画**により、各国の経済成長の拡大と社会開発の促進に繋がります。**スポーツに携わっている女性**は、ジェンダーに基づくステレオタイプに挑戦し、人を感動させるロールモデルとなり、男性と女性が平等であることを証明し、ジェンダー平等を実現します。



環境



人権



健康



教育



地域

誰も取り残さない競技観戦環境



環境



人権



健康



教育



地域

SDGs 11.7/GRI 102-55,406

ミッション

競技観戦においても誰も取り残さない
心のバリアフリーが広がる社会を作る

目標

スタジアムでの競技観戦におけるバリアをなくす

発達障がい等で大きな音が苦手でも
安心して観戦できるセンサリールーム運営

視覚障がいの有無にかかわらず試合を楽しむ
ことができる実況解説シートの販売

聴覚に障がいがあってもスタジアムにアクセスで
きるようサポート

経済的に困難な状況がある様々な方々を
スタジアムへご招待

ハイライト

天皇杯と日本代表戦において、誰も取り残さない競技観戦環境づくりを目指して、様々な取り組みを行った。新型コロナウイルス感染対策による入場制限等で中止となった会場もあったが、可能な限り実施した。天皇杯第101回JFA全日本サッカー選手権大会決勝戦では、東京藝術大学との連携によりセンサリールームのモデルルームを展示し取り組みを広く周知したほか、各試合会場では案内所等で筆談ができるることを周知し、安心してご来場いただけるように努めた。

主な指標

スタジアムでの競技観戦におけるバリアをなくす

天皇杯	日本代表戦
センサリールームの運営	3試合
実況解説シートの販売	0試合
聴覚障がい者の招待	0試合
経済的に困難な方々の招待	2試合

今後に向けて

どのスタジアムでも実施できる継続的な運営体制の構築
各種パートナーとの連携強化



実践例

センサリールーム 東京藝術大学との連携



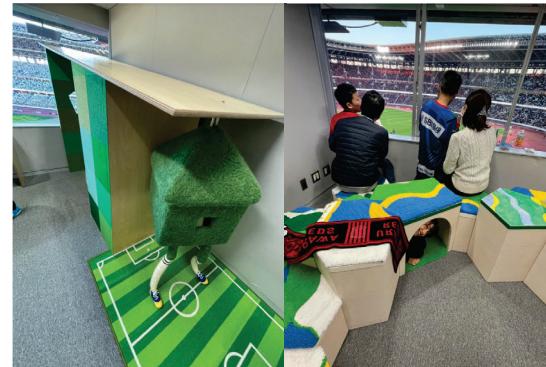
環境

人権

健康

教育

地域



2018年から国立大学法人東京藝術大学と「芸術およびスポーツを通じた社会貢献活動の推進に関する連携協定」を締結し、特別講座「DOOR（Diversity on the Arts Project）」をスタートさせてから4年目を迎えた。これまでにはJFAの社会貢献活動を題材とした映像作りを行ってきたが、今年度は「センサリールーム」にフォーカスし、第101回天皇杯JFAサッカー選手権大会決勝戦での実施を目標に取り組んできた。

5月から行われた授業では、発達障がいに関する専門家の講義を受けた受講生らが、自宅にある廃材を持ち寄り、過ごしやすい観戦環境をつくるグッズを考え作成した。また、藝大美術館での「SDGs×ARTS展」に作品を展示した。

その後、作品を実用的にするため、藝大OB・OGらの協力も受け、子どもたちが跳んだりはねたりしても十分に耐えられる強度を備え、触り心地や遮音・遮光なども考慮した作品ができあがった。

天皇杯決勝は12月19日に変更となったが、この日を授業の最終日と位置づけ、参加可能な受講生が国立競技場で観戦家族を出迎え、センサリールームを盛り上げた。

- ▶ プロジェクト詳細
https://www.jfa.jp/social_action_programme/news/00027902/



5月29日(土)
JFAとの関わり、センサリールームおよび発達障がいに関するレクチャー、「センサリールームで実現したいこと」をアイデア出し

6月12日(土)
アートを通じた課題解決にあたり、参加者たちがそれぞれ廃材を持ち寄って9つのチームに分かれて演習を実施

7月10日(土)
前回の続き

7月22日-8月31日
東京藝術大学大学美術館で行われた
展覧会「SDGs×Arts展 十七の約束には芸術がある。」において
制作しているセンサリールームを展示



9月26日(日)
天皇杯決勝戦でのお披露目に向け作品をブラッシュアップ

10月31日(日)
天皇杯決勝戦でのお披露目に向け作品をブラッシュアップ

12月19日(日)
「天皇杯 JFA 第101回全日本サッカー選手権大会 決勝」



実践例

センサリールーム JFAの広報活動



環境

人権

健康

教育

地域



2021年度は元日の天皇杯で初めて取り組んだ「センサリールーム」の広報に注力し、あえてスポーツメディア以外での紹介を目指した。センサリールーム運営を協働した団体の広報担当者にサポートいただきながら、ほぼ毎回の会場でニュース番組、新聞、Webメディアでの取材と露出を頂くことができた。特に各局の報道番組で紹介いただいた影響は大きく、ニュースを見た自治体の方から「ぜひ同様の取り組みを」とお話いただき、次のセンサリールームの設置に至った例もあった。

また取材には、対象となる人の協力が欠かせない。観戦時の取材では、様子を伺いご家族に確認をしながらインタビューや撮影に協力いただこうとしているが、特に取材対象が発達障がいを持つお子さんとそのご家族でもあり、顔と名前を出して全国メディアに出ることに躊躇されることもあるかもしれない。そのような中で「取材に協力することで、こういう障がいをもっと知ってもらえたら」「同じ特徴を持つ皆さんにも、こういう観戦経験をしていただききっかけになれば」と快く取材を受けていただけたことはとてもありがたく、OAを見ると一視聴者として心が動かされるものになっていたかと思う。

一方、メディアの現場の皆さんにとっては、「SDGs・社会貢献」が食傷気味になっている感もある。JFAとしては「良いことをやっている」ことに胡座を搔いたものにならないよう、なぜ、どんな思いで取り組むのか、社会に何を還元できるのかをメディアの方やその先にいる視聴者に向けて真摯に伝えていくことで、サッカーファミリーの増大とよりよい社会の実現に寄与していきたい。



2021年度はセンサリールームを広く社会に発信



女性のエンパワーメント



環境



人権



健康



教育



地域

SDGs 4.7,5.1,5.5,5.c／GRI 102-8,102-22,102-55,401,405

ミッション

女子サッカーを通じて夢や生き方の多様性にあふれ
一人ひとりが輝く社会を実現する。



アスパス！ JFA社会貢献活動レポート2021

目標

女性のエンパワーメント原則の取り組み推進

役職員等のジェンダーギャップ解消

ハイライト

JFAとWEリーグは2020年10月23日、スポーツ団体としては初となる女性のエンパワーメント原則（WEPs）へ署名し、女性活躍社会の実現に向けて積極的に取り組み事を表明。3月8日の国際女性デーを「JFA女子サッカーデー」と位置づけ、47都道府県サッカー協会とともに活動を推進。

9月12日に「WEリーグ」が開幕。リーグ参入基準に法人を構成する役職員の50%以上を女性とすることや、意思決定に関わる役員の1名以上を女性とすることなどを定めた。WEリーグの11クラブは、毎節試合がない1クラブが「WE ACTION DAY」と称し、社会課題へのアプローチ、地域密着などの理念推進につながる活動を行っている。

また、JFAでは、選手・スタッフが妊娠や出産に関して契約上の不利益を被ることがないよう、FIFAの選手の地位及び移籍に関する規則改正に沿って3月に女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則等を改正した。

▶ 女性のエンパワーメント原則（WEPs）年次レポート
<https://www.jfa.jp/women/news/00028741/>



主な指標

ジェンダーギャップ指数 **0.656** 120位／156カ国中（WEF）

JFA役職員等の女性割合（GRI102-8,102-22）

理事 **16%** 女性5人／30人中

各種委員会委員 **15%** 女性39人／249人中

事務局管理職 **17%** 女性11人／63人中

事務局正職員 **33%** 女性60人／184人中

JFA登録者の女性割合（GRI102-55）

サッカー指導者 **3.4%** 女性2,882人／85,227人中

サッカー審判員 **5.1%** 女性13,399人／261,149人中

※ジェンダーギャップ指数は、世界経済フォーラム「Global Gender Gap Report 2021」（2021年3月30日発行）より
※サッカー指導者は2021年10月時点、サッカー審判員は2021年4月時点

実践例

WEリーグ

リーグ開幕とWE ACTION



環境

人権

健康

教育

地域



公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ（WEリーグ）は、クラブやパートナー企業など多様なステークホルダーと共に、WEリーグの理念にある多様性社会の実現に向けた活動を「WE ACTION」として取り組んでいる。

① 女性登用の見える化

WEリーグは、参入基準において、女性登用を義務付けた日本初のスポーツ組織。

② WE STATEMENT

2021-22シーズンに向けて、各クラブが理念推進に向けての取り組みを示す、「WE STATEMENT」を策定。ステートメントに沿ったWE ACTIONを起こしていく。

③ WE ACTION DAY

シーズン中の試合がない日を「WE ACTION DAY」とし、選手とクラブは地域コミュニティと繋がり、SDGsのテーマに沿った理念推進活動を実行。

▶ WE ACTION

<https://weleague.jp/weaction/>



実践例

JFA・WEリーグ 女性リーダーシッププログラム



環境

人権

健康

教育

地域



サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員・経営層の育成を目的に、2020年度からJFAとWEリーグが開設し、今回が2期目の開催。前年に引き続き、都道府県サッカー協会の役員やWEリーグ・なでしこリーグ所属クラブ、リーグや連盟の経営層候補となっている女性12名が全国から集い、約4か月間に渡るプログラムに取り組んだ。

Module1	6月26日(土)～27日(日) JFAハウス
Module2	7月31日(土)～8月1日(日) オンライン
Module3	8月28日(土)～29日(日) オンライン
Module4	10月24日(日)～25日(月) JFAハウス 女性リーダーシップシンポジウム

- ▶ 女性リーダーシップシンポジウム
(WEリーグ公式チャンネル)
<https://youtu.be/bhzLHS08Wo8>



1期生として参加し、サッカーを何も知らないところからいろいろなつながりができるなど、2期生の皆さんがこんなにもWEリーグのこと、サッカーのことを考えていらっしゃることに感銘を受けました。WEリーグに期待するとともに、ファンの方々から「このチームと一緒に育てたい」と思っていただけるようなチームづくりをしていきたいと思っています。

シンポジウムに登壇した加藤久美子さん
(AC長野バルセロレディース取締役)





健康

Health

心もからだも社会的にも、
スポーツでいつでもどこでも健やかに。



アスパス! JFA社会貢献活動レポート2021

JFAレディース・ガールズサッカーフェスティバル



環境



人権



健康



教育



地域



すべての人に健康と福祉を
健康と福祉においては、まずユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）や高い保健医療へのアクセスの実現の必要性が叫ばれています。世界人口の半分、約36億5千万人は、基礎的な保健医療サービスを、必要なときに負担可能な費用で受けられません。これらの現状を、教育やスポーツ活動の機会を通じて、多くの方に認識してもらうことが非常に大切です。

また、薬物乱用やアルコールの有害な摂取、たばこの規制に限らず、暴力・暴言の根絶、差別・いじめ・虐待からの保護、良い指導者の養成と有資格指導者の配置、熱中症対策、だれでもサッカーを楽しめる環境のための障がい者サッカーの推進などは、ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」に基づく「サッカーファミリースポーツ安全保護宣言」でも謳われています。

運動不足は、喫煙、高血圧に次いで、病気による死亡を招く3番目の危険因子とされています。スポーツを継続し「運動不足」を解消することで、生活習慣病、高齢者の運動器症候群（ロコモ）、認知症の予防につながります。こうした全国的、世界的な健康危険因子を早期に警告し、緩和し、管理することも、このゴールのターゲットの一つです。

このほかのスポーツの課題は、健康に関連する領域ではあるものの、別の重要課題やSDGsの課題に直接的に関連します。

人権：貧困問題への対応（ゴール1）、年齢、性別、障がいの有無などに問わなく一緒に（ゴール10）

教育：若年層へのアプローチ（ゴール4）、質の高い指導者の養成（ゴール4）など。



なぜ重要なのか？

世界保健機関（WHO）憲章において、健康とは「病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」とされています。

スポーツがより身近に、みんなのものになることで、誰も取り残さず幸せになれる環境を作り上げることができます。より多くの人々が活動に参加することで、健康の重要課題に直接的に関連する**ゴール3「すべての人に健康と福祉を」**のみならず、あらゆるゴールの達成に寄与することができます。

セーフガーディング



環境



人権



健康



教育



地域

SDGs 4.7,4.a,5.2,16.1,16.2／GRI 102-17,102-55

ミッション

暴力・暴言などを一切許さない「ゼロトレランス」
多くの人々がサッカーの楽しみを享受できるよう
指導者・関係者のつながりをつくる

目標

子どもたちが安心してサッカーに打ち込める環境づくり

JFAセーフガーディングポリシーの策定

ワークショップによる人材育成

ハイライト

JFAは2019年にユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」に賛同し「サッカーファミリー安全保護宣言」を実施。またFIFAは加盟協会向けの子どもたちの安全保護ツール「FIFAガーディアンズ」を策定し、JFAも具体的な取り組みを求められている。

このような中、JFAはセーフガーディングポリシーを策定し、すべてのサッカーファミリーとステークホルダーが守るべき基本原則を示した。5月に千葉県でワークショップのトライアルを開催し、9月のJFAリスクトシンポジウムでは、FIFAセーフガーディングマネジャーのマリー＝ロール・ルミナーさん、元サッカー日本代表の中村憲剛さんらがオンラインで登壇し、子どもたちの未来を守る人が当事者意識を持って参画することの大切さを強調した。

▶ JFAセーフガーディングポリシー
https://www.jfa.jp/respect/safe_guarding.html



▶ JFAセーフガーディングワークショップ
<https://www.jfa.jp/news/00027857/>



主な指標

セーフガーディングワークショップ（トライアル） 1回 17人

地域でこのようなワークショップがたくさん実施されることは、サッカー現場の質を向上させるだけなく、地域活動の活性化や円滑な人間関係の構築につながっていくと思います。多くの方が、サッカーの楽しみを享受できるようになるすばらしい試みです。千葉県でも、どんどん実施していきたいと思っています。
ワークショップトライアルを担当した島田洋さん

今後に向けて

加盟団体（都道府県サッカー協会等）における取り組みの推進
JFAによるサポート（コンプライアンス研修会等）の充実

ダイバーシティ& インクルージョン



環境



人権



健康



教育



地域

SDGs 4.7,11.7,16.7／GRI 102-55,404,405,406

ミッション

年齢、性別、障がいの有無にかかわらず
誰もがサッカーを楽しめる環境を通じて
共生社会の実現に貢献



JFA社会貢献活動レポート2021

目標

障がい者サッカーの取り組み

障がいがあってもサッカーを楽しめる
ハンドブックの展開

JFA公認指導者研修会

JIFFインクルーシブフットボールフェスタ

ウォーキングフットボールの普及

ハイライト

2014年の「JFAグラスルーツ宣言」を踏まえ、2015年に7つの障がい者サッカー団体を統括する日本障がい者サッカー連盟（JIFF）を設立。JFAでは公認指導者研修会における障がい者サッカーコースの開催等を継続して実施。

1月には「ひろげよう！サッカーファミリー次の100年へ 誰一人取り残さない世界を 障がいのある仲間とともに」と題した障がい者についての理解を深めるハンドブックを発行し、すべての加盟チームや関係者へ広く配布した。9月には1年延期となった東京2020パラリンピック競技大会が開催され、JIFF加盟団体であるブラインドサッカー日本代表が出場。JFAは東京オリンピックサッカー日本代表、同なでしこジャパン（サッカー日本女子代表）とともに、「TEAM FOOTBALL」と称して一体となったプロモーションを展開。史上初となる同一デザインのユニフォームを着用し、試合に臨んだ。

JIFFインクルーシブフットボールフェスタは、12月に6年連続で開催。今回はオンラインと集合型のハイブリッドにトライし、様々な背景を持つ102名が参加し、ウォーキングフットボールなどを通じて、障がいがあってもサッカーならあらゆるバリアを乗り越えられることを改めて強く示した。また、10月には神奈川県版をオンラインで開催し、各地域へ広がっている。

▶ 障がい者サッカー

https://www.jfa.jp/grass_roots/disability/



▶ ウォーキングフットボール

https://www.jfa.jp/grass_roots/walkingfootball/



主な指標

JFA公認指導者研修会

4回 80人

JIFFインクルーシブフットボールフェスタ

2回 318人

ウォーキングフットボール講習会

1回

今後に向けて

JFAの登録制度改革

デジタル推進における誰も取り残さない取り組み



実践例

日本障がい者サッカー連盟

サッカーなら、どんな障害も超えられる。



環境



人権



健康



教育



地域



サッカーから共生社会の実現を

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（JIFF）が設立され6年目を迎えた。新型コロナウイルスの影響によりスポーツ界および私たちを取り巻く環境は大きく変化したが、活動を止めず積み重ねていくことで共生社会の実現へと前進していく。

誰もが、いつでも、どこでも、サッカーを身近に楽しめる環境整備

設立初年度から毎年開催している「インクルーシブフットボールフェスタ」は、パートナー企業や地元企業・団体の協力を得て東京都、広島県、茨城県で開催することができ、新たにオンラインを取り入れることで障がいの有無、地域を越え全国へと広がっている。

誰もが障がい児・者を指導できる環境の実現を目指して2018年度に開始した「JIFF指導者登録制度」は、着実に登録者数を伸ばし全国に障がい者サッカーの指導者が増えている。

また、2019年度から開始した「9地域障がい者サッカー連携会議」の継続により、7つの障がい者サッカー競技団体、地元の障がい者サッカーチーム、都道府県サッカー協会、リーグクラブ、リーグ百年構想クラブ等の関係者による障がい者サッカーネットワークの構築や組織化が進み、活動の連携を加速させている。

国際的な障がい者サッカーの普及・発展への貢献

2020年3月に障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団と協力協定を締結。これまでJFAや7つの障がい者サッカー競技団体等と協力し取り組んできたことを日本国内にとどめず、今後は国際的な障がい者サッカーの普及・発展にも貢献していく。

障がい者サッカー日本代表ユニフォームの統一

2017年度に団体ごとに異なる日本代表チームのユニフォームを統一。2020年度はコロナ禍で各障がい者サッカー日本代表活動の中止・延期が相次ぎましたが、2021年度は東京パラリンピックに出場するブラインドサッカー男子日本代表をはじめ、強化を再開。

2020年3月には、7つの障がい者サッカーの新たな支援として本連盟事務局内（JFAハウス内）に「障がい者サッカー共同事務局」を開設し、オフィス提供と人的支援を開始した。



▶ JIFFインクルーシブ
フットボールフェスタ2021
<https://www.jiff.football/report/20211225-jiff/>





質の高い教育をみんなに

教育は、**SDGsのすべてのゴールのベース**になるものです。ユネスコの報告によると、世界中には、女性であること、貧困世帯や少数民族、障害があるといった理由だけで学校に通えず、教育を受けられない子どもたちが1億7,500万人以上いるとされています。

また、ユネスコの調べでは、読み書きができる大人は約7億5千万人いて、そのうち女性が3分の2を占めるとされています。**すべての人**が**男女の差別なく**、**無理なく払える費用**で、技術や職業に関する教育を受けられるようにすることが必要です。**はたらきがいのある人間らしい仕事**（ティーセンターワーク）について、新しくビジネスを始められるように、**仕事に関係する技術や能力**を備えた若者や大人をたくさん増やすことが求められています。体力と学力は、相関関係にあることが知られています。小さいときから、**遊びながら動きを覚え、成功体験を得ること**は、勉強の成績がよくなるだけでなく、その先の人生にもよい影響を与えます。運動をするきっかけは様々ですが、学校での授業や部活動、学校以外でのクラブやサークル、そしてチームで、だれもが**質の高い指導**を受けるかはとても重要です。そこには、**差別や暴力のない安全な指導環境**が必要となってきます。これらは、すべて「教育」のゴールと密接に関係するものです。

なぜ重要なのか？

教育の重要課題には、指導者や審判員などサッカーそのものを支える人材養成と、その人材養成のために子どもや障がい、男女の差などをよく考えた現場を作る環境整備、そして持続可能な社会の発展のために必要な知識や技術を身につける持続可能な開発のための教育（ESD）などが含まれ、いずれも**ゴール4「質の高い教育をみんなに」**に直接関連しています。ESDは、その内容によって他の重要課題やそのゴールとも関連することになります。

コロナ禍でも 学びを止めない



SDGs 3.4,3.5,4,8.6,10.2,11.3,11.7,11.a,11.b
GRI 102-55,413

ミッション

夢を持つことや努力することのすばらしさ
サッカーに関わることの喜びを新しい形で届ける

目標

「夢の教室」のオンライン開催

SMCサテライト講座のオンライン開催

指導者・審判の各種講習会のオンライン開催

ハイライト

JFAこころのプロジェクト「夢の教室」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で一時中断した後、2020年9月からオンラインで再開。2020年度は986回中965回（約98%）のオンライン開催に483校28,382人の児童・生徒が参加した。160人の「夢先生」（うちサッカー競技以外111人）が、子どもたちに夢を持つことや、その夢に向かって努力することの大切さを語った。

JFAスポーツマネジャーズカレッジサテライト講座も、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となつたが、オンラインでの講座をスタートさせ、スポーツを通じた持続可能な社会の発展に貢献できる組織運営の人材を養成している。

また、指導者や審判のさまざまな講習会も、実技を伴うものを除いてオンラインで開催されるものが増え、1月には2年に1度のフットボールカンファレンスもオンラインで開催され、約2,344人が受講した。

▶ JFAこころのプロジェクト

https://www.jfa.jp/social_action_programme/yumesen/



▶ JFAスポーツマネジャーズカレッジ

<https://www.jfa.jp/smc/>



▶ フットボールカンファレンス

<https://www.jfa.jp/coach/official/footballconference.html>



主な指標

オンライン開催

JFAこころのプロジェクト（2020年度）

965回 28,382人

JFAスポーツマネジャーズカレッジ

10回 133人

今後に向けて

オンライン開催を含む各プログラムの継続的な運営



JFA社会貢献活動レポート2021

東日本大震災後の宮城県南三陸町

なぜ重要なのか？

国連によると、世界人口に占める都市人口の割合は、現在の55%から2050年に68%まで拡大すると予測されています。日本においては、世界のどの国も経験したことのない超高齢社会を迎える、2050年には30万人以上の人口規模を維持できない都市圏が相当数現れることが見込まれています。ゴール11「住み続けられるまちづくりを」は、こうした現状を踏まえ、地方行政との協働などによる、地域社会のつながりと安全の確保、イノベーションと雇用促進などを目指しています。環境、人権、教育、健康といった他のすべての重要課題とそのゴールは、地域の課題と密接に関連しており、地域におけるSDGsの取り組みが全国規模、地球規模の課題解決の成否を握っているといつても過言ではありません。



11 住み続けられる
まちづくりを

都市には、人口、経済活動、社会的・文化的な交流が集中しており、日本においては少子高齢化、地域人口減少と地域経済縮小といった持続可能性の問題が生じています。国は、こうした課題に対して、2050年を見据えた長期的な国土づくりの理念や考え方を示した「国土のグランドデザイン2050」の中で、**多様性（ダイバーシティ）、連携（コネクティビティ）、災害への粘り強くしなやかな対応（レジリエンス）**を重視し、**多様なステークホルダーとともに**取り組むこととしています。

また、一方で**地方創生SDGs**では、**くらしの基盤の維持・再生**を図り、**持続可能なまちづくりや地域活性化**の取り組みをスピード感を持って進めるためにSDGsの考え方を利用してしています。



環境



人権



健康



教育



地域

Think Globally, Act Locally.



SDGs 3.4,3.5,4,8.6,10.2,11.3,11.7,11.a,11.b
GRI 102-55,413

ミッション

サッカーファミリーが連携して
幅広い視野で地域の課題を解決する

目標

復興支援活動

各地域で活動する様々なパートナーとの連携

ハイライト

東日本大震災から10年。この間、国内外の数多くのサッカーファミリーからの支援の申し出があり、JFAでは様々な復興支援活動を実施。現在も被災したサッカーファミリーの支援活動に充てられている。また、2016年の熊本地震や2018年豪雨災害などにおいても募金活動やチャリティーオークションを実施し、被害を受けた施設の復旧工事等に拠出している。

JFAグリーンプロジェクトにおいては、サッカー施設整備助成事業により各地域にフットボールセンター等の拠点を整備しているほか、パートナー企業の協力も得ながらオンラインサロン／施設づくり情報交換会の開催や施設づくりのガイドブック発行などを行った。ポット苗方式芝生化モデル事業においては、芝生の苗を無償で提供し、これまでに全国427箇所、231面分の芝生化を推進。地域コミュニティの発展に貢献している。

主な指標

復興支援活動

10年間の復興支援金募金額 約9億8千万円

JFAグリーンプロジェクト

オンラインサロン 7回

ガイドブックがテラスボ鶴舞等を企画立案し、市に提案する際にあれば、もっとよい条件で、よりよい施設を整備できたと思います。芝生グラウンドがまだまだ不足している中、限られた条件の中で、よりよい施設をいかに整備・運営していくか、この課題を皆さんと情報交換しながら一緒に考えて進めていきたいと思います。

愛知県サッカー協会専務理事 徳田康さん

今後に向けて

施設づくりのうごきかたガイドブックを活用した施設整備の推進支援



実践例

文京区 子ども宅食プロジェクト



環境

人権

健康

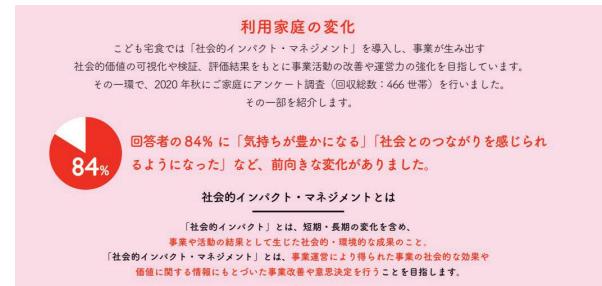
教育

地域

文京区こども宅食プロジェクトへの協力を継続した。

貧困問題は、支援を受けていることを周囲に知られたくないという思いから、見えづらいという課題がある。新型コロナウイルス感染拡大により苦しい状況となる家庭が増える中、対象世帯であることが気づかれないような形での協力を行った。サッカーに触れることでスポーツに関心を持ったり、目標や夢を持つきっかけとなり、子どもたちにスポーツとのつながりが新たに生まれ、心身の健全な発達に必要な貴重な経験をする環境を作ることが期待される。

- 2月 クリアフォルダー670セット
- 6月 エコパック700セット
- 7月 日本サッカーミュージアムへの案内
- 12月 ミニタオル・コンフィットTシャツ各700セット



こども宅食は、社会的インパクト・マネジメントにより、事業が生み出す社会的価値の可視化・検証と事業活動の改善・運営力強化を目指している。
(アニュアルレポートより)

- ▶ アニュアルレポート
<https://kodomo-takushoku.jp/archives/5112>



実践例

Jリーグ

環境省との連携協定締結



環境

人権

健康

教育

地域

環境省と公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）は2021年6月28日、夢があふれる地域社会の未来を共に創り、将来の子どもたちを笑顔にしていくという共通のゴール（GOAL）のもと、お互いが持つ知見や地域に根ざしたネットワークを共有しながら、地域の活力を最大限発揮できるよう、協働していくことで合意。

環境省とJリーグは、今回締結した連携協定に基づき、以下のアクションを日本各地で展開していくとともに、今後継続的に協働する分野・取組の協議を進めていく。

- SDGsの観点での地域の活力を最大限発揮するため、地域社会を構成する行政、企業、金融機関、市民団体、大学・学校、サポーター、Jクラブなどのステークホルダーが一体となった取組を実現するための環境整備と情報発信・コミュニケーションの推進
- 脱炭素社会（カーボンニュートラル）、循環経済（サーキュラーエコノミー）、分散型社会への移行を進めるための知見の共有や普及活動・行動変容を促す活動での協力（例えば、各種取組の効果や価値の見える化、地域での更なる活動推進、地域循環共生圏の構築、スタジアムやゲーム運営でのサステナビリティ向上、JリーグやJクラブが持つ潜在的な魅力の発掘など）
- ホームタウンの地域資源を最大限活かした地産地消の取組の推進
- 環境省とJリーグが持つ様々なチャネルを共有する連携の強化
- 共通のゴールを実現するための更なるアクションを展開するための継続的な協議

▶ 締結式の様子

（環境省YouTubeチャンネル）
<https://youtu.be/5f00-WymlhA>



連携協定締結イベントのため
JFAハウスを訪れた小泉環境大臣（当時）

イベント前に日本サッカーミュージアムを観覧。Jリーグの村井満チアマンと共に、Jリーグコーナーや日本サッカーディア、そして、2002年4月17日に横浜国際総合競技場で行われた日本代表対コスタリカ代表のキックオフセレモニーのボールと小泉純一郎首相（当時）が使用されたシューズなどを鑑賞した。

実践例

サッカー日本代表 国際試合会場における取り組み



環境

人権

健康

教育

地域

大会名	ペットボトル 分別啓発	RUN FOR THE OCEANS	センサリ－ ルーム	観戦招待	実況解説 シート	SDGs ブース
3月25日（木）神奈川県／日産スタジアム SAMURAI BLUE（日本代表）国際親善試合 vs 韓国代表	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>
3月26日（金）東京都／東京スタジアム U-24日本代表 国際親善試合 vs U-24アルゼンチン代表	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
5月28日（金）千葉県／フクダ電子アリーナ SAMURAI BLUE（日本代表）アジア最終予選 vs ミャンマー代表		<input type="radio"/>				
6月5日（土）福岡県／ベスト電器スタジアム U-24日本代表 国際親善試合 vs U-24ガーナ代表	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>		
6月12日（土）愛知県／豊田スタジアム U-24日本代表 国際親善試合 vs U-24ジャマイカ代表		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	
7月17日（土）兵庫県／ノエビアスタジアム神戸 U-24日本代表 キリンチャレンジカップ vs U-24スペイン代表	<input type="radio"/>					<input type="radio"/>
10月12日（火）埼玉県／埼玉スタジアム2002 SAMURAI BLUE（日本代表）アジア最終予選 vs オーストラリア代表		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

注目！ RUN FOR THE OCEANS

海洋資源保護を目的にadidas社が全世界的に取り組んできたRUN FOR THE OCEANSに2021年、サッカー日本代表も参画。1km走ることにペットボトル10本分の海洋プラスチック廃棄物を回収するスキームの下、JFAは同プロジェクトの告知、サッカーファミリーを巻き込んだプロジェクトの参画という2点でadidas社との強いコラボレーションを発揮。対象期間において①SAMURAI BLUE・U-24日本代表の試合中の走行距離、②試合中のボールパーソンやスタッフの走行距離、③ファン・JFA職員のランニングアプリ経由の走行距離を測定し、合算で2,021kmの走破を目指すJFA 2021 CHALLENGEを実施。また、本プロジェクトの告知に向け、対象期間における選手入場時にキャンペーンTシャツを選手が着用した他、試合中のLED看板もキャンペーン仕様に変更、JFA TVをはじめとした各社SNSで上記の選手やファンの参画状況を発信した。結果、サッカー日本代表・試合スタッフ・JFA職員・ファン・サポーターで合計2521.7kmを走破し、ペットボトル約25,217本分の海洋プラスチックゴミ回収に貢献。ユニークな取組として地上波をはじめとした各種媒体でも報道を受けた取り組みとなった。スポンサー企業とサッカー日本代表のコラボレーションを通じ、SDGsを学ぶだけで多くのステークホルダーが活動に参画する座組みとして初の事例となった。



詳細

https://www.jfa.jp/social_action_programme/news/00027008/



実践例

サッカー日本代表

国際試合会場における取り組み

センサリールーム

スタジアム観戦の醍醐味である大きな音やLEDライト等の強烈な光が感覚過敏の子どもたちにとっては観戦の障壁になりうる事例を受け、プレミアリーグを中心に取組みが広がっていたセンサリールームを参考に、2021年1月1日の天皇杯決勝を皮切りに計6回のセンサリールーム観戦企画を実施。

発達障がいなどの診断を受けている感覚過敏等の症状のあるお子さんとご家族が安心して観戦できるよう、専門家と連携してイヤーマフやスースズレン、ビーズクッションといったハード面の整備に加え、事前学習資料として観戦のしおりのご家族への配布や専門家が観戦サポートを行なうソフト面でのサポートを行った。

また、試合開催都市で持続的な取組となるよう、開催時には自治体や同地域のJクラブ・ラグビー・バスケチームの視察も受け入れ、企画や集客・運営面でのプロセスを共有することでJFAの取り組みを起点に他競技・地域的な広がりに向けた取り組みを実施した。

10月12日の埼玉スタジアムにおいては埼玉県発達障害総合支援センターと連携し、県内の発達障がいの子どもたちに対して広く募集を行い、100名以上の応募を受けるプログラムとなった。

これらの取り組みはサッカーを通じた共生社会実現に向けたユニークな取り組みとして地上波、新聞、Web記事などで多くの反響があった。

詳細

https://www.jfa.jp/samuraiblue/worldcup_2022/final_q/news/00028068/



聴覚障がい児の観戦招待企画

6月12日(土)に豊田スタジアムで行われたU-24日本代表の国際親善試合にて、聴覚障がいのある子どもたち11名を招待。本企画は3月のU-24日本代表のSAISON CARD CUP 2021に合わせて行った投げ銭企画を通じて集まった資金で行われた。

当日は、聴覚障がいのある子どもたちと保護者の計20名が参加。参加者をアテンドするにあたって、内容を理解できるように主に視覚的情報を保障するように工夫した。具体的には、JFA職員による手話を併用してのアテンド、ホワイトボードでの筆談対応など、聴覚障がいのある人がスムーズに理解できるコミュニケーションを行った。また、U-24日本代表の各選手からのサイン入りパンフレットや中山雄太選手から手話による動画メッセージも送られた。

参加者の多くは日本代表戦を現地で観戦したことがなかったが、白熱の試合を実際に観戦したこと、よりサッカーが大好きになったり、将来日本代表になって活躍する夢を持ったという参加者もいて、大きな成果があつた。

詳細

https://www.jfa.jp/social_action_programme/news/00027180/



実況解説シート

3月の日本代表戦2試合で実況解説シートを販売。試合当日、スタジアム内の受付で、お一人様1台のラジオ受信機とイヤホンを貸し出した。イヤホンはご自身で持参されたものをご使用頂くことも可能。

一般向けの座席と視覚障がい者用の座席を販売し、視覚障害者用のチケットを購入された方には、JFAの職員有志を中心としたサポートスタッフ数名が待機し、座席までの案内、売店やトイレへの案内などを行った。

詳細

http://www.jfa.jp/samuraiblue/20210325_ifm/ticket.html#tabBox3



ペットボトルの分別回収

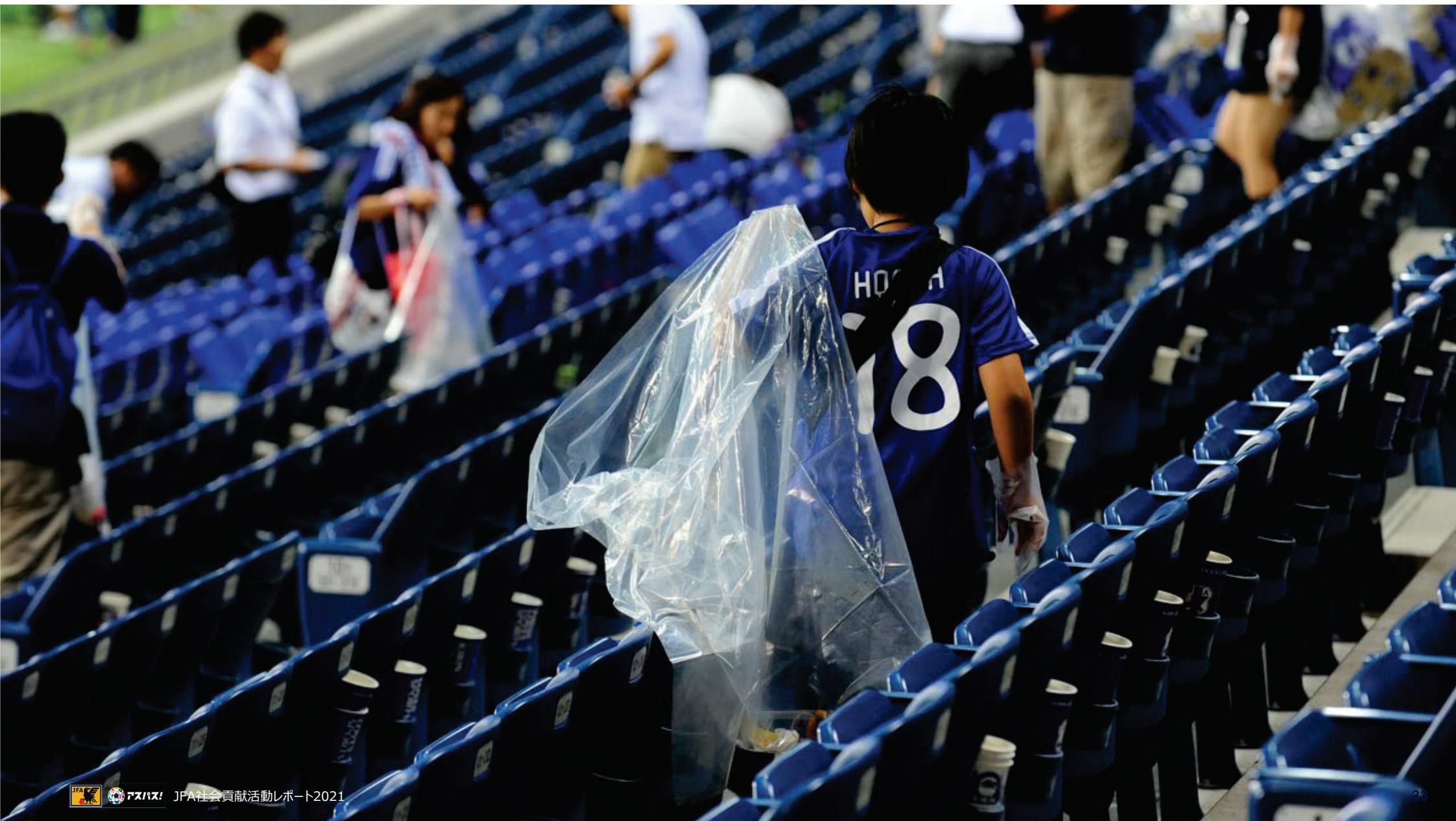
7月と10月の日本代表戦2試合でペットボトルの分別回収の啓発とキャップを使った勝利チーム予想を行った。SDGsブースと入場ゲート前の飲料入れ替えブースでペットボトルのキャップとラベルを回収。そのキャップで勝利チームを予想し投票をしてもらった。回収したペットボトルキャップは、リサイクル業者を通じて再資源化・販売され、その売却益は世界の子どもたちにワクチンを届ける取り組みに役立てる。

日本代表戦の会場では毎回大量にペットボトルが消費、廃棄される。ペットボトルは正しく分別し回収されることによって何度も生まれ変わることができる大切な資源。このペットボトル分別・回収の大切さを伝え、持続可能な社会の実現に貢献していく。

詳細

https://www.jfa.jp/social_action_programme/news/00027601/





ESGデータ集（GRI対照表）

https://www.jfa.jp/about_jfa/esg_data.html



開示事項	分類	ID	報告要求事項	内容	関連ページ
102 一般開示事項	1.組織のプロフィール	102-1	組織の名称	公益財団法人日本サッカー協会（JAPAN FOOTBALL ASSOCIATION）	組織概要
		102-2	活動、ブランド、製品、サービス	日本サッカー界を統括し代表する団体として、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献することを目的している。 公益財団法人の公益目的事業として、サッカー普及振興事業を行っており、日本代表関連事業、競技会開催事業、指導普及事業、社会貢献事業、ミュージアム運営事業、災害復興支援事業、JFAナショナルフットボールセンター事業を行っている。また、収益事業としてJFAハウスの賃貸事業、その他の事業として登録・オンラインシステム関連事業を行っている。	JFAの概要 定款第3条 事業計画・事業報告
		102-3	本社の所在地	主たる事務所：〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷3丁目10番15号）JFAハウス	組織概要
		102-4	事業所の所在地	日本国内に2ヶ所の事務所（JFAハウス、JFA夢フィールド）を設け、他に4ヶ所のJFAアカデミー（福島、熊本宇城、堺、今治）と1ヶ所のJFAメディカルセンター（福島）を設置している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：施設・拠点
		102-5	所有形態および法人格	公益財団法人 (一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（法人法）に基づく一般財団法人であり、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（認定法）に基づきサッカー普及振興事業を公益目的事業と位置付けて公益法人としての認定を受けている。)	組織概要
		102-6	参入市場	日本国内及び海外で活動する公益・非営利セクターで、サッカーを愛する仲間（サッカーファミリー）を対象に事業を実施している。	定款第4条第2項_事業計画・事業報告
		102-7	組織の規模	総従業員数：231人（常勤役員10人、正職員176人、臨時雇用職員45人含む）※2020年12月31日時点 総事業所数：3ヶ所（JFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンター）※関連施設：JFAアカデミー4ヶ所	価値創造ストーリー：ひと目で分かるJFA
		102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	正職員（常勤役員10人含む）：186人（男性126人、女性60人（32%））臨時雇用職員：45人（男性8人、女性37人（82%））※2020年12月31日時点 ※従業員はJFAハウス、JFA夢フィールド、JFAメディカルセンターの3ヶ所にて就業している。	価値創造ストーリー：ひと目で分かるJFA
		102-9	サプライチェーン	日本代表関連事業：日本代表の強化、日本代表戦の開催のために、日本代表選手／所属クラブ、旅行会社、各種用具、トレーニング施設、スタジアム、主管協会等が関係している。 競技会開催事業：各種競技会開催のために、スタジアム、主管協会、運営スタッフ等が関係している。 指導普及事業：選手育成、指導者養成、審判関連、広報関連事業のために、トレーニング施設、会議室、指導者、審判員、印刷会社等が関係している。 社会貢献事業：各種社会貢献事業実施のために、各種パートナー等が関係している。	価値創造ストーリー
		102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	2020年に千葉県に「高円宮記念JFA夢フィールド」を開設した。	高円宮記念JFA夢フィールド
		102-12	外部イニシアティブ	国連グローバル・コンパクト（2009年7月）、寄付月間（2015年）、政府「子供の未来応援国民運動」（2019年5月）、ユニセフ「子どもの権利とスポーツの原則」（2019年6月）、国連グローバル・コンパクト、UN Women「女性のエンパワーメント原則」（2020年10月）	価値創造ストーリー：日本中に、そして世界に広がるパートナーシップ
		102-13	団体の会員資格	国際サッカー連盟（FIFA）、アジアサッカー連盟（AFC）、東アジアサッカー連盟（EAFF）、日本スポーツ協会（JSPO）、日本オリンピック委員会（JOC）にサッカー競技団体として唯一加盟している。	JFAの関連組織図
	2.戦略	102-15	重要なインパクト、リスク、機会	(中期計画参照)	中期計画
	3.倫理と誠実性	102-16	価値観、理念、行動基準・規範	JFAの理念：サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。 JFAのビジョン：サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々との友好を深め、国際社会に貢献する。	価値創造ストーリー
		102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	暴力等根絶窓口、内部通報制度等を設けている。	暴力等根絶相談窓口 内部通報者保護規則

開示事項	分類	ID	報告要求事項	内容	関連ページ
4.ガバナンス	4.ガバナンス	102-18	ガバナンス構造	サッカー競技を統括する唯一の団体としての社会的責任をふまえ、FIFA標準規約に基づき、立法（評議員会）・司法（規律委員会・裁定委員会・不服申立委員会）・行政（理事会）の独立した3つの機関による三権分立の体制を導入。理事会のもとに、各種委員会を設置し、理事会の諮問に対して答申し、所管事業を実施している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
		102-19	権限移譲	定款及び事案決裁規則等に基づき、役員、事務局へ権限移譲を行っている。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制 事案決裁規則
		102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	法令及び定款に基づき、評議員会は役員等の選任・解任等を行い、理事会は法人の業務執行の決定、理事の職務執行の監督等を行っている。評議員は、理事、監事、職員、司法機関又は常設委員会の委員を兼ねることが禁止されており、業務執行権を有さず、独立性が確保されている。任期は4年で、75団体から1名ずつ推薦され、選任されている。現在、女性評議員は1名。役員は任期2年で、理事30名中男性26人、女性4人となっている。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制 定
	5.ステークホルダー・エンゲージメント	102-23	最高ガバナンス機関の議長	評議員会の議長は、評議員の中から選出することとなっており、組織の業務執行を行う者と兼ねることはない。	評議員及び評議員会規則
		102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	代表理事である会長、副会長、専務理事、常務理事は、評議員会で予定者を選出し、理事会で選定する方法で決定している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
		102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	理念、ビジョン、中期計画は、理事会が決定している。	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
	5.ステークホルダー・エンゲージメント	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	(関連組織図参照)	価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：ガバナンス体制
6.報告実務	報告実務	102-52	報告サイクル	年次	このレポートについて (P8)
		102-53	報告書に関する質問の窓口	お問い合わせ窓口に記載の代表電話、WEBフォーム。	JFA組織概要
	報告実務	102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	この報告書は、GRIスタンダードの中核（Core）オプションに準拠して作成されている。	
		102-55	内容索引	このGRIスタンダード対照表 ※スタンダード外の項目は、末尾に記載している。	

開示事項	分類	ID	報告要求事項	内容	関連ページ
200 経済	201 経済パフォーマンス	201-1	創出、分配した直接的経済価値	(本レポート上の関連ページおよびJFA公式サイト上の最新データ参照)	価値創造ストーリー：ひと目で分かるJFA
		201-4	政府から受けた資金援助		日本スポーツ振興助成事業報告 競技力向上事業補助金・選手強化NF事業一覧
	203 間接的な経済影響	203-1	インフラ投資および支援サービス		価値創造ストーリー：社会の発展への貢献：施設・拠点
300 環境	302 エネルギー	302-1	組織内のエネルギー消費量		重要課題：環境
	303 水と排水	303-1	共有資源としての水との相互作用		
	305 大気への排出	305	温室効果ガス（GHG）排出量 (スコープ1~3)		
	306 廃棄物	306-2	種類別および処分方法別の廃棄物		
400 社会	401 雇用	401-1	従業員の新規雇用と離職		重要課題：教育 (P25)
	404 研修と教育	404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム		
	405 ダイバーシティと機会均等	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ		重要課題：人権 (P15)

アスパス！ > おわりに

パートナーシップ・国際イニシアチブ

https://www.jfa.jp/about_jfa/value_creation_story/organisational_basis.html

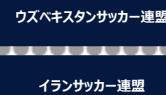


常にフェアプレーの精神を持ち、
国内の、さらには世界の人々との友好を深め、
国際社会に貢献する。

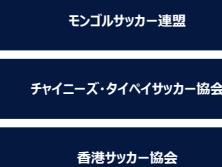
ヨーロッパ



中央アジア



東アジア



西アジア



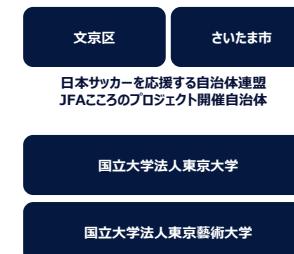
東南アジア



南米



日本国内



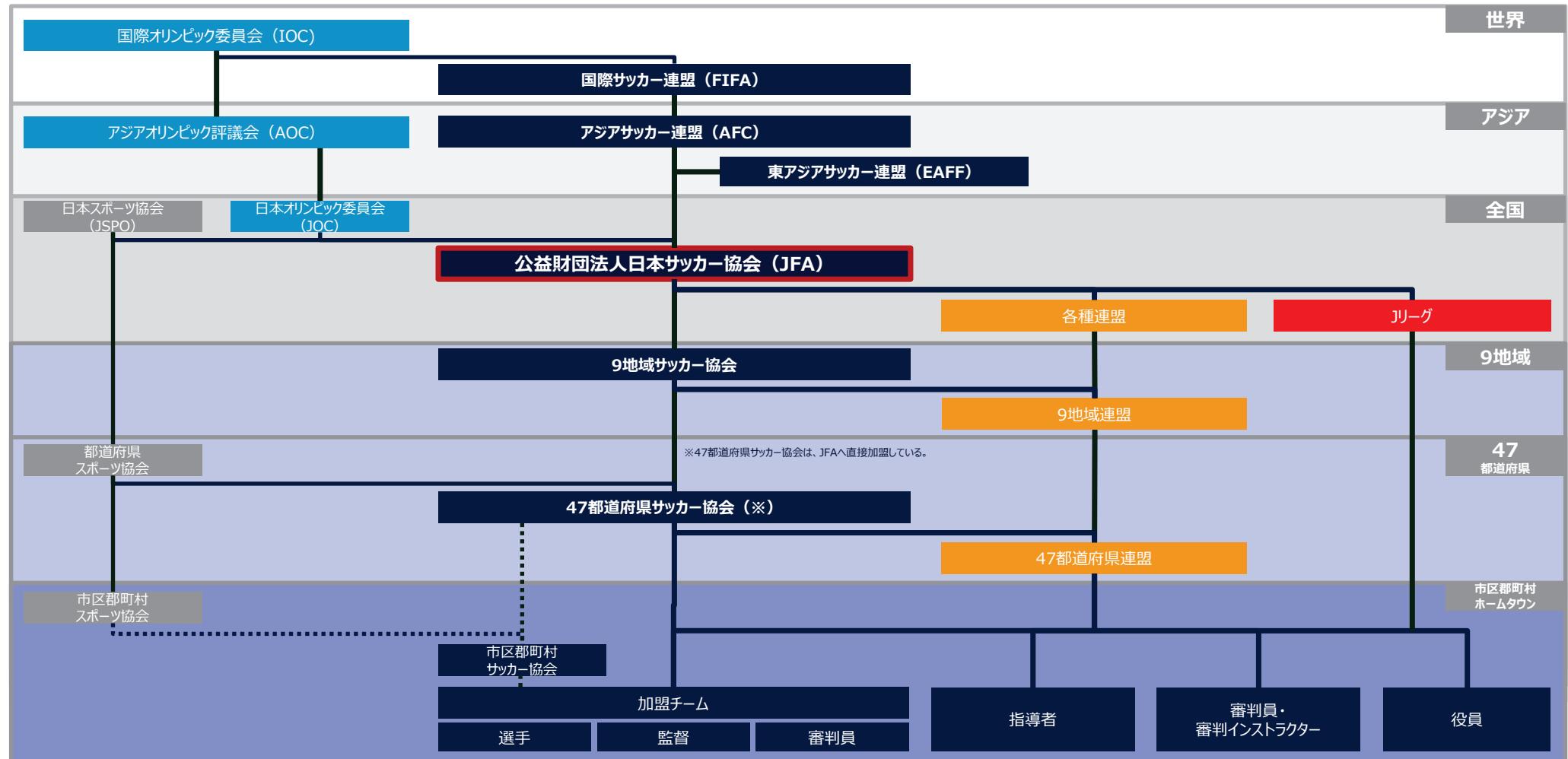
全国的なキャンペーンへの協力



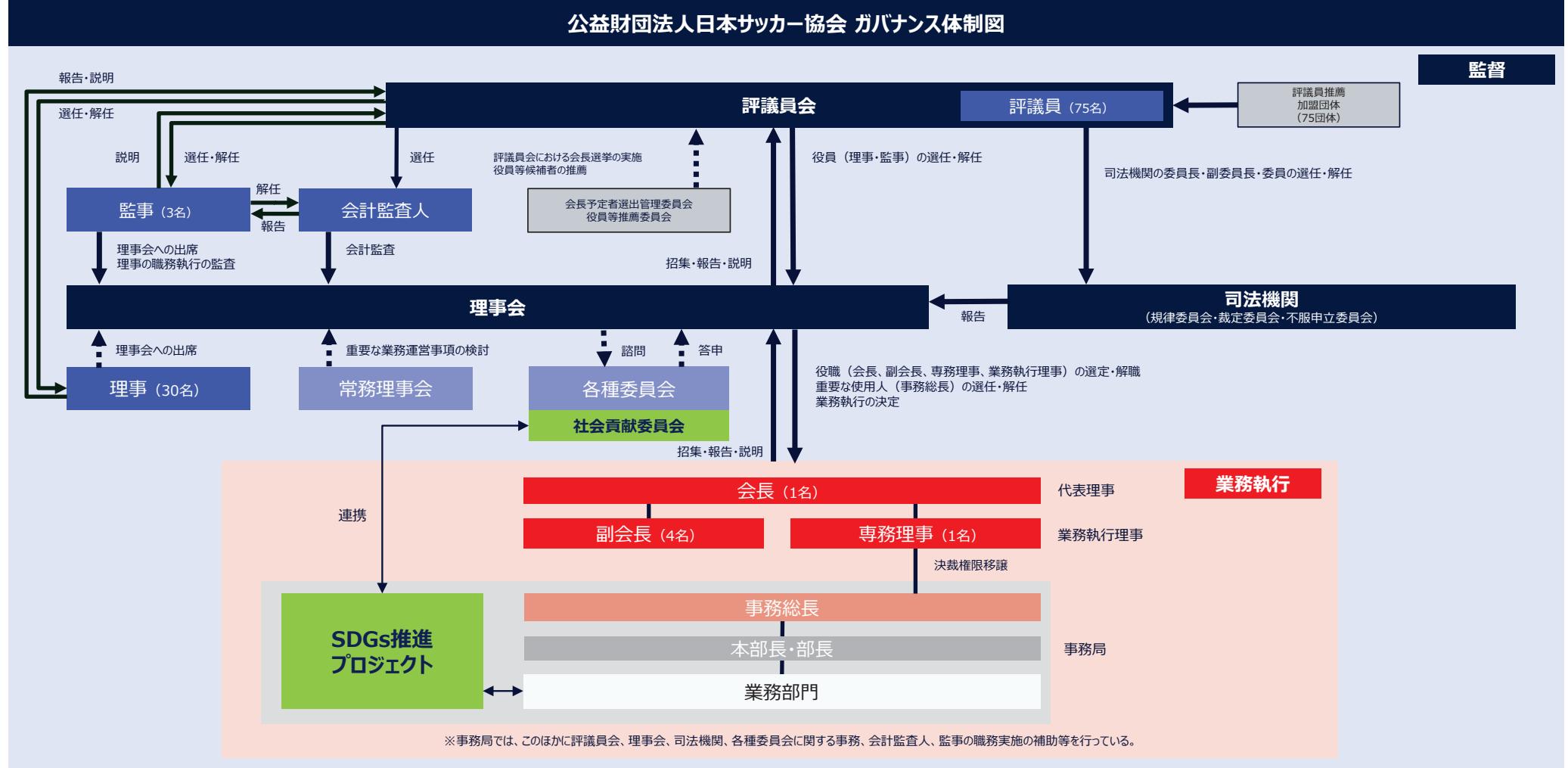
参画している主な国際イニシアチブや国際協力のためのパートナーシップ



JFAの関連組織図



JFAのガバナンス体制図

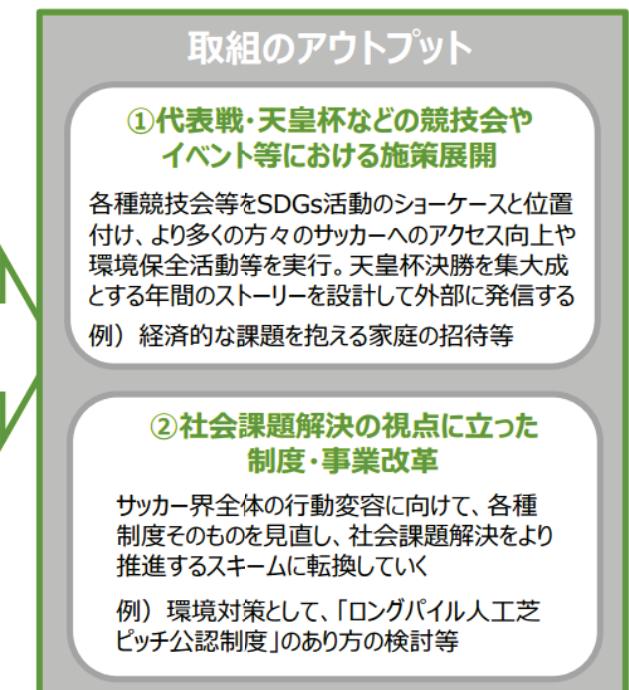
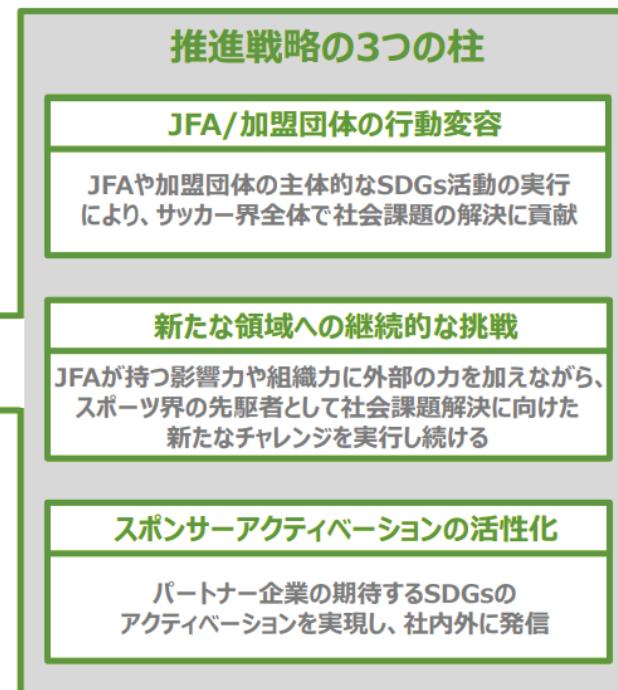


JFA中期計画2022-2025（抜粋）

category : 組織

▶▶▶SDGs／「誰ひとり取り残さない」サッカー界の実現に向けて

JFAの理念・ビジョンの実現に向けた活動を通じて、SDGsの目標達成に寄与し、「誰ひとり取り残さない」サッカー界の実現を目指します。



社会貢献委員会



委員会の種類	専門委員会（各種委員会運営規則第3条に基づき設置）
設置	2016年3月
所管事項	社会貢献に関する事項
委員長	日比野 克彦 JFA理事／国立大学法人東京藝術大学美術学部長
委員	国谷 裕子 ニュースキャスター 宮城 治男 特定非営利活動法人工ティック 里崎 慎 デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社 鈴木 順 Jリーグ
	（現在の委員は、2020年5月の理事会で選任され、任期は2022年3月まで）
開催日程	2021年2月22日、4月30日、7月12日（計3回、オンラインで開催）
主な活動	東京藝術大学との連携 国連グローバル・コンパクト活動 寄付月間 子供の未来応援国民運動 子ども宅食プロジェクト ほか

社会貢献委員会 各委員から



国谷 裕子 委員

サッカーは「エンパワーメント」、すなわち自ら動きたいと思う人材の育成に大きく資する。若い世代がそれぞれ自分で考えて自分で発信できる、健康な体をもつ、地域づくりに貢献する、そういうた社会課題にサッカーが関わることでサッカーの価値が高まる。

宮城 治男 委員

サッカーは世界とつながっている。社会を良くしていく上で、JFAの責任は大きい。環境や人権の領域は、外部からのプレッシャーが大きく、「やらねばならない」に近い。具体的な目標を決めて外部組織との連携を強化しないといけない。

里崎 偵 委員

それぞれの重要課題について具体的な目標を設定し、取り組みの進捗と社会的インパクトを可視化することが必要。
サッカーファミリーを増やしていくためには、サッカー競技を通じた入口が大きいが、それ以外の様々な形の入り口があつてもいい。

鈴木 順 委員

社会貢献の取り組みこそ、従来の枠組みにとらわれず新たな価値を生み出すために必要。「シャレン！」同様、社会貢献を一つの領域として組織運営に組み込んでいくべき。サッカー界の中でも横のつながりを強固にし、スタジアム以外でもクラブとつながる人と一緒に増やしていきたい。

社会課題解決に寄与することが、
サッカーの価値を高める。



BLUE PEACE DAYS (2019年)

https://www.jfa.jp/national_team/u22_2019/bluepeacedays/



アスパス! JFA社会貢献活動レポート2021

Thank you.